

3世代が繋ぐ、背広の浪漫  
ツキムラ物語

PART 6

奈良の町で、親から子へと繋いでいった「洋服店」。そのタスキを受け取った現社長 岸伸彦氏の記憶と共にツキムラの軌跡、そしてこれからご紹介していくコーナーです。



岸社長

PRODUCED BY TUKIMURA

## ツキムラの歩み

## 時代背景

2001年	5店舗目となる 高の原店オープン 近鉄電車内にチラシ広告開始	ジョージ・W・ブッシュが大統領就任 アメリカで同時多発テロが勃発
2002年	JR奈良駅周辺土地区画整理事業の一環によりJR奈良駅前本店を買収 初のラジオ番組「ツキムラ カフェ」がならどっとFMで放送開始 ラジオ大阪で友近さんと「笑う門には服来たる」の放送開始 JR奈良駅前本店 リニューアルオープン	皇太子妃雅子様が愛子様を出産 UFJ銀行誕生 2002FIFAワールドカップ開幕 小柴昌俊氏にノーベル物理学賞、 田中耕一氏にノーベル化学賞

前回までのあらすじ

大正14(1925)年、奈良町の一角で創業されたツキムラ洋服店。その3代目として生まれた岸氏。20代で店を担い、貿易や縫製を勉強しながら、株式会社ラガソットを設立。徐々に販路を拡大していった。そして、確かな縫製技術を持つ職人と出会い、更なる飛躍を目指す。

「直接声を届けたい」  
ラジオ番組という  
新しいチャンネル

5店舗目の高の原出店にともない、チラシや電車の車内刷りなど、広告作りに岸氏は自ら没頭した。最初の反響はあるものの、だんだん落ちてくる。次の媒体を模索し始めていた。そんなある日、よく似たダイレクトメールやチラシが同業者から出始めた。店名以外はまるで焼き写し。一生懸命考えたPRコピーが使われていてショックを受けた。見るだけで訴えたものは、最後は真似されて終わる。もっと五感を使ったPRはできないか。そんなときに、ならどっとFMからゲスト出演のオフアがあった。気負いもせず、背広のうんちくを語った岸氏は、「ラジオを聴いたよ」という多くの反響に驚

いた。それと共に、ラジオを熱心に聴いていた子ども頃の、あのワクワクした気持ちを思い出していた。「これからは直接声を届けたい」。新しいメディアのチャンネルを見つけた岸氏は、ならどっとFMで「ツキムラ カフェ」というラジオコーナーを持つことになった。

初めての生放送の前夜は、緊張しすぎてなかなか眠れない。当日の朝早く、誰にも言わずにこっそり会社を出て、奈良公園で、ひたすら話す練習をしながら時を待った。放送は30分間。練習をした成果もあつてか、楽しみながら満足ゆくまで話せた。2000年には、2時間の生放送で中継しながら、リスナーと一緒に旧ドリームランドでファッションショーを行うなど、ツキムラの発信はラジオがメイン媒体となり始めた。「飲み屋のカウンターでたまたま横になって仲良くなって話を



1945年頃先代社長

すると、最後におたく何してる人?と聞かれる。その時に、「ツキムラという服屋やってます」というと必ず買いに来てくれようになる。同じ感覚をラジオでもと思った」。

そんな頃、ラジオ大阪で若手お笑い芸人と組んで、自ら出演する番組を始めないかという話しが舞い込んだ。相手はまだ無名だった友近さん。スタートした当初は、番組にリスナーからの批判のメールが届き、プロデューサーに怒られる日々が続いた。「怒られた帰り道に、友近さんとラーメンを食べながら相談をしてね。次から収録の1時間前に来て打ち合わせをしようかと言って励ましてくれた」という。背広に関係のないトークばかりを繰り広げて、普段通り自分のことを「オレ」と話し、リスナーから批判される。唯一、自身の商売とリンクしたのは「笑う門には服来たる」というコーナー名のみ。宣伝もしないで馬鹿なことばかりしているのではないか…。

ちょうど、15回目の放送を過ぎた頃から、友近さんを目当てに出待ちのファンが増えた。時期を同じくして、ツキムラにもようやく「ラジオを聴いた」といって来店するお客さんが増えてきた。反響がでてきたと感じ始めていた。その後、友近さんは活動の拠点を東京に移し、全国区の人気お笑い芸人となっていたと同時に、3年半続いた番組は終了。テレビで見かける度に、嬉しさと共に、はるか遠いところまで置いていかれたという焦りと寂しさも覚えた。そんな岸氏は、友近さんに追いつけ追い越せと、ラジオ番組出演を精力的に行った。その後、反響を確信した岸氏はKBS京都での出演など、ラジオでPRの場を拡大していったのだ。

(次号へ続く…)



上の写真は、JR奈良駅前本店のリニューアルにともない、2階に作られたラジオスタジオ。下の写真は開店間近の店内で、ラジオの公開放送を行っている模様。